

小 6	受験 番号		氏 名	
-----	----------	--	--------	--

入塾試験サンプル

小 6

国 語

[注 意]

1. この「入塾試験サンプル」の問題数は、実際の入塾試験の問題を減らしたサンプル版となっています。
2. 実際の入塾試験では、問題によってはやや難易度が高い問題が出題される場合もあります。
3. 実際の入塾試験では、問題冊子と解答用紙は別々に分かれていますので、本番と同じように解答は解答用紙に記入して下さい。



Method for Essential Capability & Creativity



Method for Essential Capability & Creativity

1

次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カタカナは漢字で書いて答えなさい。

- ① 外国と交易する。
- ② 潔く負けを認める。
- ③ カンシヤの言葉を伝える。
- ④ 友人をパーティーにシヨウタイする。

2

次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次のそれぞれのことばについて、読み方にあてはまる熟語の組み立てのパターンをあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 雨具 ② 手紙 ③ 雑木
- ④ 大人 ⑤ 岩石

- ア 上の字も下の字も音読み。
- イ 上の字も下の字も訓読み。
- ウ 上の字は音読み、下の字は訓読み。
- エ 上の字は訓読み、下の字は音読み。
- オ 熟字訓じゆくじくん(熟語としての読み方が決まっていて、漢字自体が本来持っている読み方とはちがう読み方をするもの)。

問二 次の文の——線部から、活用することばを選び、記号で答えなさい。

ア友人とイ遊園地へウ遊びにエ行く。

3

次のそれぞれの俳句を読み、あとの問いに答えなさい。

A 閑さや岩にしみ入る蟬の声

まつおばしろう
松尾芭蕉

B きつつきや落ち葉をいそぐ牧の木々

しゅうおうし
水原秋桜子

C 雪とけて村一ぱいの子どもかな

小林一茶

D スケートの紐むすぶ間も逸りつつ

せいし
山口誓子

問一 A～Dの俳句から、擬人法（人間以外のものを人間に見

立てて表す表現技法）が用いられているものを一つ選び、

記号で答えなさい。

問二 A～Dの俳句から、詠まれている季節が「春→夏→秋→

冬」の順序になるようにならべて、記号で答えなさい。

問三 Aの俳句を、意味や調子の上から二つに分ける場合の分

け方として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

A 閑さや／岩にしみ入る蟬の声

I 閑さや岩に／しみ入る蟬の声

ウ 閑さや岩にしみ入る／蟬の声

問四 Dの俳句の解説文として最もふさわしいものを、次から

選び、記号で答えなさい。

A スケートの紐を結びながら、早く滑りたいとわくわくしている様子

I 誰よりも速く滑ろうと、スケートの紐をきつく結んでいる様子

ウ スケートの紐が解けてしまったので、あわてて結んでいる様子

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは、何かをしていて間違えたり、失敗したりしたことはありませんか。

間違いや失敗は、できることならしたくないものです。恥ずかしかったり、悔しかったり、嫌な気持ちになってしまいます。ですから、できる限りそうならないように努力をするでしょう。おそらく、間違いや失敗を「してはいけないもの」と思っている人は、少なくないように思います。

では、間違いや失敗は、本当に「してはいけないもの」なのでしょうか。そして、全くミスをしない人間にはなれるのでしょうか。

自転車の練習をした時のことを思い出してみてください。初めから、すいすい乗れましたか。補助輪をなかなか外せなかったり、転んだりしてはいませんでしたか。なかにはすぐに乗れるようになったという人もいるでしょうが、ほとんどの人がケガをしたり怖いを思いをしたりしながら、乗れるようになったはずですよ。

始めから、何でもうまくできるという人はいません。間違いや失敗を絶対にしないということもできません。もちろん、できる

限り間違えないように気をつけることは大切なことです。しかし、新しい試みや初めて挑戦したことに対して、失敗なしで終わるというのは、極めて難しいものです。事前に準備をしつかりしていれば、大きなミスは防げます。とはいえ、どんなに準備を周到にしていたとしても、大抵、必ず一つは「こうすればよかった」と思う点が出てくるはずです。

このように、間違いや失敗をしてしまい、落ち込む人は多いと思います。^①そこからなかなか立ち直れない人もいますでしょう。しかし、その失敗をただの失敗に終わらせるか、成長につながる失敗にするかは、^②失敗した先の行動で決まります。

大切なことは、自分のした間違いや失敗を活かして、行動できているかということです。間違いや失敗をして、後悔したり反省したりする人は多いでしょう。しかし、「その間違いや失敗をしたために、次はどうするか」ということまで考えている人は少ないのではないのでしょうか。ただ落ち込んでいるだけでは、成長することはできません。失敗したときに次はどうすれば良いのかを考え、同じ、あるいは似た状況になった時に以前の失敗を活かして行動することが成長するということです。

たとえば、学校のテストで低い点数をとってしまったら、きっと悔しい思いをするでしょう。そこで、「まあ、いいや。次がんばろう」と言って終わりにするか、「どこが良くなかったのかな」と振り返るのかでは、次のテストの結果が変わってきます。自分の行動を振り返り、どこに原因があったかを探る方が、次のテストで良い結果を得られるはずです。「授業で分からないところを、先生に聞いていなかった」「宿題をさぼってしまった」など、失敗の原因を見つけておくことで、同じ失敗を防ぐことができます。

そもそも間違いや失敗をすることは、悪いことでも恥ずかしいことでもないのです。間違いや失敗をそのままにして、同じミスを繰り返してしまい、進歩しないことの方が良くありません。間違いや失敗をしないように努力することは必要ですが、もしそれをしてしまったとしても、次は失敗しないように活かせば良いのです。

また、「君のテストの点数が低かったのは、勉強をしていなかったからだよね。もっと早く勉強に取りかかった方が良いよ」などと周りの人に失敗や間違いを指摘してきされたことはありませんか。自分ならまだしも、他人に耳が痛いことを言われるのは嫌なもので

す。思わず反論したくなるかもしれません。しかし、そこで相手の言っている言葉を^③真摯しんしに受け止められれば、自分の成長につながります。

「良薬口に苦し」ということがあります。「本当に自分のためを思って口にしてくれる忠言ちゅうげんは、ありがたいが聞くのが辛い」という意味ですが、聞くのが嫌なことほど、自分にとっては大事なことなのです。実際に人に言われて初めて気づく間違いもあります。

人に言われた間違いを素直に受け止めることは、簡単ではありません。この行動を、相手に負けたように感じる人もいますが、それは違うのです。なぜなら、間違いを認めるということは、勇気がある証拠しやうこだからです。目を背けたそむくなるような間違いを受け止めるとなれば、本来は隠したいと思っている自分の嫌な部分を見つめなければなりません。自分の弱さと向き合うのは、苦痛をともないます。しかし、それを乗り越えれば必ず大切なことに気づけます。

ですから、自ら間違いや失敗を振り返ることも大切ですが、他人から教えてもらうことにも耳を傾けるかたむことが必要です。耳の

痛いことを言ってくれる人ほど、自分のことを思っただけで伝えようとしてくれるのです。しっかりと指摘してくれる存在というのは、とてもありがたいことと受け止めると良いでしょう。

「弱さを知って、強くなる」という言葉にもあるように、自分の弱点や苦しいことを認めることは強さに通じます。自分の弱さにふたをして、見て見ぬふりをするのは強さではなく、ただの強がりです。自分の弱さを知っているからこそ、心から感謝して人の力を借りることができます。弱い部分を互いに補い合えるのです。本当の強さとは、何でも自分一人だけでできるようになることではありません。自分だけでなく他人の弱さも切り捨てず、理解し、受け入れることなのです。

問一 ―― ①「そこ」とは、何を指していますか。ふさわしい

ものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自転車でケガをしてしまい、うまく乗りこなせない状態。

イ 新しい試みや初めての挑戦で失敗をしてしまった状態。

ウ 大きなミスはしなかったが、「こうすればよかった」と悔やんでいる状態。

エ 間違いや失敗をして、落ち込んでいる状態。

問二 ―― ②「失敗した先の行動」とは、具体的にどのような

ことですか。左の文章の□に当てはまるように、本文中

から二十五字以内で書きぬいて答えなさい。(句読点も字数に数えます)

〈同じ失敗をしないように、□に〆を二つ。〉

問三 ―― ③「真摯に」の意味として最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 素直で優しい様子。

イ 礼儀正しく親切な様子。

ウ まじめで熱心な様子。

エ 努力を惜しまず一生懸命な様子。

問四 ―― ④「強さ」とは、具体的にどういうことですか。『
強さ。』という形で、二十五字以内(句読点も字数に数えます)

で書いてぬいて答えなさい。

問五 本文の内容に合っているものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 間違いや失敗をすることは恥ずかしいことなので、できる限りしないように努力することが大切だ。

イ 周りの人に間違いや失敗を指摘されると、相手に負けたことになるので、できる限りしないように努力すべきだ。

ウ 間違いや失敗は、同じミスをくりかえさないように、次に活かしていくべきだ。

エ 周りの人に間違いや失敗を指摘されるより前に、自分で気づいて次へ活かすことが大切だ。

オ 他人の言葉はたとえ聞くことが辛くても、自分を振り返る手段として大切にすべきだ。

カ 他人の言葉は必ず素直に受け止め、その言葉の通りにすることが必要だ。

キ 他人の言葉は耳が痛いものほど重要なので、聞くのが嫌なことだけを活かしていくべきだ。

(これで問題は終わりです。)

解答

- 1 ① こうえき ② いさぎよ ③ 感謝 ④ 招待

- 2 問一 ① エ ② イ ③ ウ

- ④ オ ⑤ ア

問二 エ

- 3 問一 B

《解説》擬人法は、人間以外のものを人間に見立てて表す表現技法です。Bの句で「落ち葉をいそぐ牧の木々」とあります。「牧場の木々は、まるで冬支度を急いでいるかのよう

に、あわただしく葉を散らしてゆく」という意味です。葉は自然に落ちるものですが、この句では「木々」を人間に見立て、「木々が急いで葉を落としている」と表現しています。

問二 C↓A↓B↓D
《解説》それぞれの句の季語は、A 蟬せみ||夏、B 落ち葉||秋、

C 雪ゆき||春、D スケート||冬となっています。

問三 ア

《解説》詠んだ時の調子や意味をつかんで、切れ目を探しましょう。

問四 ア

◎ それぞれの句の意味は次の通りです。

A ああ何という静けさだ。その中で岩に染み通っていくような蟬の声が、いよいよ静けさを強めている。

B きつつきがこつこつと木をつつく音が聞こえる。それに合わせるかのように、牧場の木々がしきりに葉を落としている。

C 雪ゆきの季節を迎えて、冬の間に閉じこめられていた子供たちがいつせいに戸外に出て、村いっぱいに広がり遊んでいる。

D スケートリンクでは、もう大勢の人々が楽しそうに滑っている。その姿を見ているとスケート靴の紐ひもを結ぶ時間すべがもどかしいほど、心が高ぶってくる。

4 問一 エ

《解説》指示語の問題です。指示語の内容は必ず前の内容を指しますが、まずは指示語の直後を確認しましょう。直後に「なかなか立ち直れない」とあります。「立ち直れないのはどういう状況じょうきょうから？」という点を踏ふまえて前の文を読みに行くと、「間違いや失敗をして、落ち込む」と書いてあることに気づきます。イと迷うかもしれませんが、「失敗し

た」だけで終わっており「落ち込む」という状況まで書かれていないため不足となりますので、選んではいけません。

問二 自分の行動を振り返り、どこに原因があったかを探る

《解説》「失敗した先の行動」とあるので、失敗の後にどのように行動すべきかを本文中から探しましょう。失敗した後の行動については直後の段落で述べられています。直後の段落から「同じ失敗をしないように、～こと」に当てはまる、二十五字の部分を探してみましょう。見つからなくても焦ることはありません。さらに次の段落が「たとえば」で始まっていることから、失敗した先の行動の具体例であることがわかります。同じように探してみましょう。

問三 ウ

《解説》意味を問われる問題です。意味を知っていればよいですが、知らない場合は文脈からどういう意味かを読み取って、解答しましょう。普段から知らない言葉を見つけた時は、辞書で引くなどして語彙力を高めていきましょう。

問四 他人の弱さも切り捨てず、理解し、受け入れる

《解説》問題を解く際は、必ず傍線部^{ほうせんぶ}だけでなくその一文や段落を読み返しましょう。今回は、この後の文に「本当の

強さとは～」という文がありました。ここから、具体的に説明している文を抜き出して答えましょう。

問五 ウ・オ

《解説》内容把握^{はあく}の問題です。自分が「いいな」と思う選択肢ではなく、「本文の内容と一致している」選択肢を選びます。そのためには、選択肢だけを見て選ぶのではなく、必ず本文と選択肢を照らし合わせて選ぶ必要があります。まず、絶対に違うと言い切れる選択肢には×を、本文のここ（何行目の表現かはつきりさせましょう）と同じことが書いてあると言い切れる選択肢には○をつけましょう。○かな？×かな？と迷う選択肢に書いてあることを本文に探しに行きます。本文で述べられていないことや逆の内容は×になります。

